令和8年度　お茶の水女子大学　共創工学部
学校推薦型選抜　帰国生徒・外国学校出身者特別選抜　試験問題
文化情報工学科　　小論文

Ⅰ　表1は会社A～Eの広告費と売上である。表1に基づいて、後の問1～4に答えよ。ただし、小数第2位を四捨五入し、必要であれば、$\sqrt{2} \approx 1.41, \sqrt{70} \approx 8.37$ を使ってよい。計算過程も答案用紙に記すこと。

表1：広告費（万円）と売上（万円）

会社	A	B	C	D	E
広告費	2	4	6	8	10
売上	20	35	35	40	45

問1　広告費と売上のそれぞれの標準偏差を求めよ。

問2　広告費と売上の共分散を求めよ。

問3　問1と問2で求めた結果を用いて、広告費と売上の相関係数を求めよ。求めた結果から広告費と売上についてわかったことを述べよ。

問4　回帰直線の式を求めて、広告費が12万円の時の売上の予測値を求めよ。

Ⅱ　次の文章を読み、後の問1と問2に答えよ。なお、問2に関しては、別添資料も参照しながら解答せよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典：鈴木晃志郎・于燕楠 2020. 怪異の類型と分布の時代変化に関する定量的分析の試み. *E-journal GEO* 15: 58–61 より抜粋. 問題に使用するにあたり一部改変した。

1) 千里眼事件　明治末期に、透視や念写といった超能力を持つとされた人々の能力を、学者たちが実験を通じて実証しようとした。この実験は、当時の社会に大きな反響を呼び、マスコミによるセンセーショナル、スキャンダラスな報道もされるなど、マスメディアと科学、超能力をめぐる論争を巻き起こした。

2) 博物学　動物や植物、鉱物など自然界の事物について、性質や分布などの情報を収集・記録した上で、それぞれの事物を整理・分類する学問のこと。

問1 日本における怪異の分類学的アプローチとはどのような特徴をもつのか。本文の内容を参考に、200 字程度で論じなさい。

問2 本文には、怪異に対する空間論的アプローチとでも呼ぶべき研究方法があることが述べられている。その必要性については、本文の著者の表現を借りれば、「怪異が現象として成立するには、それらが人と邂逅（かいこう）する必要があり、舞台としての場所（心霊スポット）が必要」（鈴木・于 2020:61 頁）だからである。このことを踏まえ、江戸時代の巷説（こう）奇聞を、古老の話や閑居を訪れる者の雑談から集めて書き留めた、根岸鎮衛作『耳嚢（みみぶくろ）』に収録された江戸の怪異（動物の怪、植物の怪、憑きもの、怨念による怪など）・霊験に関する別添資料をみて、怪異・霊験と地域・空間との間に関係性があるかどうか分析し、その結果から考えられることを論じなさい。分析結果は、表もしくは図も使いながら分かりやすく示すこと。

Ⅱ　問２　別添資料

『耳嚢』にみる江戸の怪異・霊験[4]

巻	地域区分[3]	空間区分		怪異・霊験	説明
1	下町	堀		河童が現われる。	
	下町			大火の混乱の中で救い出される	神仏の助け給へるならん
	山の手	屋敷	門前	怪僧が他人の筆記能力を借りる	
2	山の手	大名屋敷	庭	蛇が天に昇る〔雲・雨〕	
	山の手	大名屋敷	庭	蛇が天に昇る〔雲・雨〕	
	山の手	大名屋敷	庭	蛇が天に昇る〔雲・雨〕	
	山の手	屋敷		母親が猫の姿になる	猫のついたという者の由
3	山の手	屋敷	大藪	貛（まみ）という妖獣（妖怪）	
	下町			大火の混乱の中で救い出される	一心に信仰をなす所には奇特もあるものなり
	下町	町屋		女性に憑（つ）き[5]ものが起こり、予言を当てる。	狐がつく
4	山の手	大名屋敷	庭	蝦蟇（がま）が遠くの虫を吸い付ける	年経し蟇（ひき）の人気を吸わんも空事ならず
	山の手	寺院	庭	蝦蟇が鼬（いたち）に気を吹き、とかす	十余年も生き候えば、すべて物は申すものにて、それより十四五年も過ぎ候えば神変を得候事なり
	山の手	寺院	庭	猫が人語を話す	
	山の手	四辺打ちはれたる道		妖怪に会う	瘴癘（しょうれい）[6]の気の雨中に形容をなしたるならん
	下町			娘に狐が憑き礼を言う	
	山の手	大名屋敷		稲荷の大鼓の修理依頼人が不明	狐などのしわざや
	山の手	屋敷	納戸	小児が納戸で消え、三日後納戸に現われる	
	山の手			門番が悪事を行なうたびに、眼を病む	仏罰を受けしなり
	山の手	屋敷		娘が原因不明で妊娠　腹中より声	
5	山の手	町屋	かまど	かまどの中から坊主が手を出し、はね回る	念残りしや
	山の手	町屋		修験（者）を冷くあしらった後、夜具が物を言う	修験忿恚（ふんい）[7]執着
	下町			偶然が重なって命びろいをする	観音の利益、知音の信切[8]
	山の手			夫の見た面が妻の夢に現われ、面を祭り繁盛	木面を得て幸いあれ
	下町	川端		夢に見た水神像を祭り繁盛	水神を夢みて幸いを得し
	下町	町屋		疱瘡（ほうそう）[9]を病む小児が予言を当てる	狐狸妖獣の類、無心の小児熱に奪わるるに乗じぬるもあるらん
	山の手	大名屋敷		狐が夢の中で報恩する	
	下町	屋敷		下女に憑きものが起こり予言を当てる	狐つきし
6	山の手	大名屋敷	庭	庭石が鳴動する	昔、庭で切腹をした為
	山の手	屋敷	庭	狐が子供を隠し殺すという復讐を行なう	
	山の手		庭	幻僧が妙薬を教えた後、消える	
	山の手	屋敷	縁	猫が語を話す	
7	山の手	屋敷	庭	稲荷の祠（ほこら）を移しても、元に戻る	狐は霊獣ゆえかくなしける
	山の手			疱瘡を病む小児が予言等を語る	いずれ疱瘡には鬼神のよる所もあるにや
	山の手	町屋		山伏が来て火事を次々と予言する。	狸（たぬき）のいたずらにやあらん
	山の手	屋敷		狸の怪	
	山の手	道・町屋		狸が下女に化ける	古狸にてありし
	山の手	道		「腰より下は見えず、貌大きなる眼ひとつ」の妖怪（大きなるごい鷺（さぎ））	
	山の手	原		つむじ風に巻き込まれた子供に足跡が付く	かまいたちといえる獣、風の内にありしや
8	山の手	馬場		狸が娘に化け、心中を図る	狸は人を欺き迷わす
	山の手	道・屋敷		道に迷い、油を盗まれる。油に酔う狸がいる。	まさしく狐狸にたぶらかされしならん。憎き奴が仕業なり
	山の手	屋敷	庭	狸が老女に化ける。	古き狸なりし
	山の手			麦飯を食べた客が鰻（うなぎ）釣りを戒める。鰻の腹中に麦飯	
	山の手			麦飯を食べた客が鰻釣りを戒める。鰻の腹中に麦飯	
	山の手	屋敷	流し元	小豆を洗う音がするが、姿はない	小豆洗いといえる怪、これ蟇の怪なり
9	下町	堂上・門上		火のようなものが天に昇る〔雲・雨〕	潜竜上天
	山の手	橋		女の姿が消える、釣りの獲物（鰻）も消える	全く狐にたぶらかされしならん。
	山の手	大名屋敷		夢に老翁が現われ稲荷移転を止める。稲荷に札がある。	
	山の手	大名屋敷		夢に老翁が現われ稲荷移転を止める。稲荷に札がある。	
	山の手	堂		一本の松のようなものが炎を出し天に昇る。〔雲雨〕	昇竜
	山の手	大名屋敷	庭	石が馬に化けて走る	
	山の手	屋敷	庭	杏樹（きょうじゅ）が血や煙を出す	年古き化け杏樹
	下町			夢中に猿が頭痛を直す	祈願叶（かな）はざるなし
	下町	町屋		酒好きの父親の酒が消える。嫁に憑きもの（狐か）が起る	霊気狐を頼み過酒を止めし事
	下町	町屋		酒好きの父親の酒が消える。嫁に憑きもの（狐か）が起る	霊気狐を頼み過酒を止めし事
	山の手	大名屋敷	庭	小社に邪神が封じこめられる	みだりに口説にかけてはおしき品を先代封じ、社に祟め給ふ。
10	下町	町屋		聟（むこ）に憑きもの（狐か）が起こり、母とともに病死	狐祟り

	山の手	屋敷	山（庭）	松を移すことができないが、説得すると移せた。	非情といえど松樹不思議
	下町			夢に大黒天が現われ、貧者が金を得る	大黒を祈りて福を得し事
	下町	屋敷	倉	怪物（恐ろしき坊主やうのもの）が現われ倉を守る	古来より右倉内に怪物あり
	下町	町屋	戸袋	女が戸袋より現われ消える	
	山の手	大名屋敷	庭	大工に狐が憑く	
	山の手	屋敷	庭	古石が人語を話す	石魂ありてかくありしや
	下町			「火玉獣ようのもの」走り廻(まわ)り、木より天に昇る	雷
	下町	遊女屋		妖怪が人に化け遊ぶ	狸の化け来りしに違いなしとや
	山の手	坂		屋台から油揚が消える	全く狐の仕業なるべし
	山の手	屋敷	中間部屋	見知らぬ者達が騒ぐ。見ると消える	全く猫の仕業なるべし

この表の怪異・霊験は、作成者である内田が地名を比定できたものを抽出して掲載している。
出典：内田忠賢 1990. 江戸人の不思議の場所－その人文主義地理学的考察. 史林 73: 923-926 に掲載の表を一部改変し、使用した。

3) 地域区分　「下町」と「山の手」とは、江戸（現在の東京）における通称地名である。江戸の地形は、東側の低地と西側の台地から構成されていた。徳川家康の入府以降、主に低地には町屋が形成され、台地には周囲の自然環境を取り込んだ庭園をもつ武家屋敷や旗本屋敷が建てられた。一般的に、前者の地域を「下町」、後者の地域を「山の手」と呼ぶ。

4) 霊験　神・仏などへの信仰・祈願などの結果現れる不可思議な恵みやご利益のこと。

5) 憑きもの　憑依(ひょうい)現象のこと。トランス状態の一つの形態。

6) 瘴癘　特有の気候風土によって起こる伝染性の熱病のこと。

7) 忿恚　怒ること。

8) 観音の利益、知音の信切　宗教的救済と人間的救済という二つの救いのこと。

9) 疱瘡　天然痘のこと。